

東海地方の家畜からの *Escherichia albertii* の分離と 性状解析

富山満里奈¹⁾ 市川 隆¹⁾ 村松智恵子¹⁾ 浅井鉄夫^{2)†}

1) 名古屋市食肉衛生検査所 (〒455-0027 名古屋市港区船見町1-39)

2) 岐阜大学大学院連合獣学研究科 (〒501-1193 岐阜市柳戸1-1)

(2021年12月8日受付・2022年4月5日受理・2022年5月14日公開)



本文はこちら

要 約

東海地方の家畜における *Escherichia albertii* (*E. albertii*) の保菌状況を明らかにするため、2018～2019年に名古屋市管内と畜場に搬入された牛39頭(10農場)及び豚124頭(22農場)の直腸便を供試した。11農場(50%)の豚でスクリーニング陽性検体を認め、*E. albertii*は10農場(45.5%)20頭(16.1%)から分離された。20株中17株(85%)が何らかの抗菌薬に耐性を示した。パルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)法で20株は5グループに分類された。*E. albertii*を分離した3農場の豚114頭を2020年に追加調査し、分離された18株は農場ごとに同じPFGEグループに分類された。以上、*E. albertii*は農場で長期間維持されることが示唆された。

——キーワード：薬剤耐性, *Escherichia albertii*, パルスフィールドゲル電気泳動, 豚。

----- 日獣会誌 75, e107～e113 (2022)